2015 July
7
No.54

The Kashiwara Mihariban
かしわら見張り番

発行所 かしわら見張り番

代表 はまうら佳子

〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782
info@kashiwara-mihariban.com

柏原小学校・柏原東小学校・柏原中学校が小中一貫校に!?

保護者、学校関係者らが知らないうちになぜ進む?

柏原小学校・柏原東小学校・柏原中学校の3校を廃止し、統合して小中一貫校を建設する計画が持ち上がった。子どもたち、保護者、学校関係者に事前説明もなく市民不在の学校統廃合あまりにも乱暴だ!

3月予算で決定した3校の耐震化工事費をなぜ削減したのか? 5月に、補助金申請してなかった!

この3月の柏原市議会で、柏原小・柏原東小・柏原中の3校の耐震工事が決定した。ところが、6月、市がいきなりこの耐震工事をとりやめにし、小中一貫校を建設する提案を市議会に提出した。

市は、耐震診断の結果をもとに耐震化を進める予定であったが、調査の結果や小中一貫教育の導入の必要性、今後の児童減少等の理由に総合的に判断したという。

耐震工事を進めるために、5月中旬までに国に補助金申請を何故、しなかったのか。柏原市の歴史の一頁を変えるほど市民にとって重大事をたった2ケ月足らずで変更し、決めたのである。子どもたちの安心・安全を真っ先に考えるべき教育委員会のやり方は乱暴であるという濱浦議員の質問に吉原教育長も認めた。いったい誰が決定したのだろう?

二転三転の耐震化 共産党議員、濱浦議員が猛反発!

この急な方向転換に、おり、「その経費が適切かという調査」にかかる費用として792万9000円かかる。

それを認めることは、小中一貫校に向けて、計画を認めることになるのだ。

そもそも市が、保護者ら市民になんの説明もなしに、小中一貫校を急に進めること自体がおかしいと、リセットして一からやり直すべきであると橋本議員、山本真見議員、濱浦議員は反対した。

3月から6月までのわずか3ヶ月間に、耐震化決定→耐震化とりやめ→耐震化再度決定・中高一貫校への調査へと、二転三転のドタバタ劇が繰り広げられていた。

共産党の橋本議員、山本真見議員、濱浦議員が猛反発。たとえ小中一貫校の建設が議会で通るようなことになっても完成まで数年かかり、それまでに震災等が起これば子どもたちの命にかかわると反論した。3議員と他の議員の尽力により、来年になるが3校の耐震化工事費が認められた。

しかし、「小中一体型の学校設計・建設までの費用等を企画・調査する予算」は6月26日の本会議で賛成多数で可決された。

小中一貫校の建設については、校舎は民間業者が建て、それに対し市が毎月賃料を払うという方式を検討していた。

どうなっている市民不在の中野市政! かしわらプレミアム商品券に市民の苦情殺到!

販売総額3億7200万円(プレミアム分6200万円含む)。この6200万円は公的資金で国民の税金である。税金の使い方は可能な限り公平・平等でなければならない。今回行政のとったプレミアム商品券販売方法は、多くの疑問点を残した。**経済的、時間的、身体的にゆとりある人は購入できた。**しかし、**子育てに追われる若い家族(最も生活費として必要な世代)の人たちは購入できなかった**と聞く。◎家族で買い占めていた ◎午前中購入して、午後他の販売窓口へ ◎他市の人が買っていた ◎赤ちゃんまで人数に入れていた ◎雨の中、何時間も待たされ惨めな思いをしたと多数の苦情電話等があった。今回の販売方法は平等性に欠けていたのでないか。他市は、往復はがきで応募して抽選。一世帯一冊とされていると聞いている。この方法が市民にとって平等である。何故、しなかったのか?小中一貫校といい、今回のプレミアム商品券といい中野市政は計画性のない独断的なやり方である。

『見える政策、見せる行政で透明度アップ』『市民の声が聞こえる化』言うだけでなく実行すべきである。

〈市民からの小中一貫校に対する要望書(一部抜粋)〉

「市民不在、議会無視の突然の提案、あまりにも早急過ぎです。小中一貫校の問題点多いと思います」

「小中一貫校が良いのか、別の方法はどうなのか、**市民に充分説明し、その結果、市民総意のプランを行政が実現すべき。**何の説明もせず、一方的に上から一貫校をつくるんだという押しつけはダメ」

「住民が自治体の主人公ではないのですか。その住民を無視するような小中一貫校の建設計画は白紙にもどすべきです」

「なんでこんなことができるのでしょうか。**教師だった中野市長なら、子どもや親の願いに耳を傾けてくれると思っていたのが大まちがいでした。**頭ごなしのこの案は取り下げて、親や教師の意見を取り入れ、もっとていねいに議論すべきです。**これではますます、子育て世代のお母さんたちが柏原から離れていきます**」

「小中一貫校の予算について、改めて提案し、今回取り下げてください。**何か黒い影を感じます。**」